

クラス	ゼッケン	氏名	フリガナ	エントラント	タイムトライアル			予選		決勝		備考
					タイム	順位	順位	周回数	順位	周回数		
<p>第6戦から2ヶ月以上の間隔をあけた11月18日、スポーツランド生駒では2012トヨタTDPチャレンジSL生駒ミーティング最終戦(第7戦)が開催された。前日一日中降り続いた雨もすっかり上がった晩秋のスポーツランド生駒、今回はK-1シリーズYZクラスも併催されることもあって、パドックは最終戦に相応しく朝からにぎやかな緊張感に包まれている。最終戦はポイントが1.5倍になることもあり、多くのクラスが今日の結果でシリーズチャンピオンが決定する。最終戦の開催クラスは、キッズ(GT-1、GT-4)、ジュニア(カデット)、シニア(YAMAHA SS、YAMAHA YZ85、スポーツカート、スポーツカートチャレンジ)の7クラス、エントリー台数は総数61台となった。午前中二度の降雨に見舞われタイムスケジュールに一部変更があったものの、午後からは陽射しが暖かく穏やかな最終戦となった。本日のレースの表彰とあわせて2012年度シリーズの暫定表彰も行われ、つるべ落としの夕暮れの中お互いに一年の検討を称えあい、また来年の再会を期して今年度のシリーズ戦が閉幕した。</p>												
SK	11	原 貞夫	ハラサダオ		34.807	1	1	10	1	15		<p>タイムトライアルでポールポジションを獲得したのはこのクラス創設以来3年連続シリーズチャンピオンである原。予選、今年度シリーズチャンピオンに大手をかける金治は、今日は慎重な走りで行き続けた。決勝、トップを走行する原、原を追う金治。金治は原が優勝しても2位にはいればポイント差でチャンピオン獲得となる。金治は6周目ヘアピンコーナーで鋭く原のインを突いて先行する。11周目スリッパストリームを使った原が再び金治の前に出る。その後原はディフェンディングチャンピオンの意地を見せて金治を押さえきり今年度最終戦を優勝で締めくくった。金治は原に続いて2位でゴール、この結果、金治のシリーズチャンピオンが決定した。3位にはポイントランキング3位の小池が入賞した。</p>
	10	金治 祥平	カナジショウヘイ	びいたあばん	34.997	2	2	10	2	15		
	7	小池 誠治	コイケセイジ		35.402	5	4	10	3	15		
	6	後藤 英多郎	ゴトウエイタロウ	びいたあばん	35.270	3	3	10	4	15		
	9	高橋 雄佑	タカハシユウスケ		35.361	4	5	10	5	15		
	2	三浦 貴彦	ミウラタカヒコ		35.558	7	6	10	6	15		
	8	藤谷 和毅	フジタニカズトシ		35.486	6	7	10	7	15		
	1	小林 浩	コバヤシヒロシ		37.451	8	8	10	8	1 (DNF)		
GT-1	1	神谷 甲輝	カミヤコウキ	びいたあばん	41.991	1	1	10	1	15	<p>予選、スタート直後から大接戦の激しいバトル。2番手藤原は3周目ヘアピンで先行する神谷をかわしてトップに立つが、神谷はすかさず先頭を奪い返す。4周目の1コーナーでの混戦から藤原が後退、変わって下村が前が出る。このクラスこれまで6戦全戦優勝の神谷。今日もぶつちぎりの単独走行かと思われたが、今日は藤原を簡単に引き離すことができない。神谷と藤原は3番手以下を引き離し接戦を続け、8周目には藤原が神谷の真後ろにぴったり張り付き手の届くところまで来たかとおもわれたが、藤原の追い上げもそこまで、だんだん間隔が開き神谷の優勝を止めることはできなかった。神谷は2012年シリーズ完全制覇の7連勝を達成、文句なしのシリーズチャンピオンを獲得した。</p>	
	2	藤原 優汰	フジワラユウタ	びいたあばん	42.633	2	2	10	2	15		
	11	下村 涼羽	シモムラリョウ	ナガオカト	42.717	3	3	10	3	15		
	6	上田 樹希	ウエダイツキ	びいたあばん	42.742	4	4	10	4	15		
	15	土田 来夢	ツチダラム	びいたあばん	43.444	6	7	10	5	15		
	13	長尾 祐星	ナガオユウセイ	びいたあばん	43.673	7	6	10	6	15		
	16	土田 美夢	ツチダミュ	びいたあばん	43.187	5	5	10	7	15		
	5	榎原 時代	サカキバラジダイ	びいたあばん	43.819	8	8	10	8	14		
	14	金海 風	カナウミナギ	びいたあばん	46.552	9	9	9	9	14		
GT-4	2	角越 圭斗	スミコシケイト	びいたあばん	35.230	2	1	10	1	15	<p>予選スタート後まもなく角越と大谷が接触、大谷は一旦ストップしてしまう。遅れた角越は追い上げて片木を抜くが引き離すことはできない。片木は角越にピッタリ張り付く。大谷もその間に徐々に間隔を詰めて行くが及ばず、角越、片木、大谷の順で決勝へ。決勝、一団となった3台から抜け出した角越、片木と大谷の激しい2番手争いを尻目にマージンをどんどん広げて行き、第6戦に引き続いての優勝を決めた。2番手争いは、6周目に大谷の前に出た片木がそのまま大谷を引き離すかと思われたが、大谷も根気強く片木に追いつき、その後は抜きつ抜かれつ。めまぐるしく順位を入れ替える激しいバトルを最後まで続けたが、15周目にチェッカーフラッグを先に受けたのは大谷であった。</p>	
	3	大谷 玄真	オオタニゲンマ	びいたあばん	35.354	3	3	10	2	15		
	8	片木 翔太郎	カタギショウタロウ	びいたあばん	35.208	1	2	10	3	15		
YZ85	9	南出 大輝	ミナミデダイキ	びいたあばん	31.345	2	2	10	1	15	<p>昨年度チャンピオンの小林良、今年はこの最終戦が初出場だ。タイムトライアルでコースレコードをたたき出してPPを獲得したが、予選スタートでホールショットを奪ったのは3番手スタートの小林正。南出、西田を交えた4台で激しくトップ争いを繰り広げたが、9周目に小林良が小林正の前に出ると1年間のブランクを感じさせない走りでの差を拡げてトップで決勝へ。決勝、3番手から西田がロケットスタートを決めてトップに躍り出た。2周目ヘアピンで小林正が西田をかわすも裏ストレートの上りで抜き返される。2番手スタートから4番まで順位を落としていた南出が4周目には先行する小林をかわして先頭西田の背後に迫ると激しく西田にプレッシャーを掛ける。一進一退の攻防が続くが、13周目3コーナーで南出がインをついて西田の前に出ると、西田は力尽きたのかそのままの順位でチェッカーを受けた。マシンに車検不適合な箇所があったことが発覚し決勝は最後尾スタートとなった小林良は、それでも追い上げて3位に入賞、チャンピオンの底力をみせた。</p>	
	2	西田 幹宏	ニシダモトヒロ	びいたあばん	31.591	4	3	10	2	15		
	11	小林 良	コバヤシリョウ	びいたあばん	30.430	1	※10	10	3	15		
	1	小林 正	コバヤシショウ	びいたあばん	31.557	3	1	10	4	15		
	10	島村 雅之	シマムラマサユキ	堺レーシング	32.555	7	4	10	5	15		
	12	大田 薫	オオタカオル	びいたあばん	32.284	6	7	9	6	15		
	8	溝手 亮治	ミゾテリョウジ		32.924	9	6	10	7	15		
	3	山田 達雄	ヤマダタツオ	びいたあばん	32.173	5	8	9	8	15		
	7	下野 麻衣	シモノマイ	びいたあばん	32.848	8	5	10	9	15		
	5	矢野 雅一	ヤノマサカズ	びいたあばん	43.139	10	9	2 (DNF)	10	0 (DNF)		
											※レギュレーション不適合	

クラス	ゼッケン	氏名	フリガナ	エントラント	タイムトライアル		予選		決勝		備考
					タイム	順位	順位	周回数	順位	周回数	
カデット	6	嶋田 隼人	シマダハヤト	びいたあばん	33.522	2	1	10	1	15	ポイントランキング1位の松崎と5ポイント差で松崎を追う嶋田、今日優勝したほうがシリーズチャンピオンの栄誉を獲得する。予選、スタートでトップに立ったのはセカンドポジションの嶋田。中世古にも先行された松崎であったが、4周目に中世古をかわすとすぐさま嶋田追い上げる。最終周3コーナーでインをついて嶋田の前にてたもののクロスラインでかわされ、嶋田がトップで決勝へ。決勝、ホールショットを奪ったのは嶋田。5番手スタートの奥野が2番手にジャンプアップし、松崎は4番手と出遅れてしまう。順位を戻していくと思われた松崎であったが、3周目に??逆に順位を最後尾まで落としてしまった。後続車の混戦には我関せず、トップを快走する嶋田、あつという間にストレート1本以上引き離す形で今シーズン最終戦を優勝で締めくくり、シリーズチャンピオンを手中とした。スタートでうまく飛び出した奥野はその後ポジションをキープしていたが、12周目には追い上げてきた中世古にかわされ、ラスト2周で松崎にも先行を許してしまう。松崎は最後尾から巻き返しを回り3位に返り咲いたが、追い上げもそこまで2位中世古までは届かなかった。
	22	中世古 実愛	ナカセコミナリ	びいたあばん	33.683	3	3	10	2	15	
	1	松崎 清悟	マツザキシソゴ	びいたあばん	33.201	1	2	10	3	15	
	10	奥野 詩菜	オクノシイナ	F's クラブ	34.059	5	4	10	4	15	
	56	岩田 直人	イワタナオト	びいたあばん	33.901	4	5	10	5	15	
YAMAHA SS	13	紀平 真之介	キヒラシンノスケ	サーティーズR	32.271	4	3	10	1	15	久しぶりに台数が揃ったSSクラス。実力伯仲のベテラン達とめきめき力をつけてきた新人とが参戦するこのクラスは、ローリングスタートから火花を散らすような迫力満点のレース展開が期待される。第4、第5、第6戦と3連勝のタネブは、タイムトライアル、予選と順調に1位でコマを進めてきた。決勝スタート、久しぶりに出場の乾が5番手から猛ダッシュを決め先頭へ。続いて紀平、岸本、石田がポジションを上げ、タネブは混乱に巻き込まれて順位を大きく落とす形となった。シリーズチャンピオンを虎視眈々と狙う紀平は7周目乾をかわしてトップに出たものの、すぐ抜き返される。3番手岸本も交えての先頭争いは、11周目3コーナーで紀平が再び乾をかわしてトップに返り咲き、失速した乾は裏ストレートで岸本にもかわされてしまいポジションダウン。その後は紀平が着実に周回を重ねて1位でゴール、シリーズチャンピオンを確実にした。2位岸本、3位乾の順でチェッカーを受け、一時は9番手まで順位を落としたタネブは追い上げを見せ5位に入賞、その結果、シリーズ2位岸本に続いての3位を確保した。
	3	岸本 慎介	キシモトシンスケ	F's クラブ	32.262	3	2	10	2	15	
	27	乾 裕貴	イヌイユウキ	サーティーズR	32.592	5	5	10	3	15	
	7	石田 健登	イシダケント	F's クラブ	33.768	16	7	10	4	15	
	8	タネブ タンコ	タネブタンコ	びいたあばん	32.149	1	1	10	5	15	
	1	岸本 尚将	キシモトナオマサ	びいたあばん	32.751	9	6	10	6	15	
	6	野口 善久	ノグチヨシヒサ	スフィーダ	32.731	8	8	10	7	15	
	25	澤村 学	サワムラマナブ	KAKIERacing	33.126	13	12	10	8	15	
	15	槻木 伸一	ツキギシンイチ	シナジーリンク	32.974	11	10	10	9	15	
	26	澤田 尚也	サワダナオヤ	シナジーリンク	33.268	15	13	10	11	15	
	5	下野 璃央	シモノリオ	びいたあばん	32.916	10	9	10	12	15	
	18	境 奉史	サカイトモフミ	びいたあばん	33.928	17	15	10	13	15	
	24	佐々木 祐二	ササキユウジ	シナジーリンク	33.231	14	11	10	10	14	
	10	佐藤 章	サトウアキラ	サーティーズR	33.052	12	14	10	14	14	
	11	棚橋 慶輔	タナハシケイスケ	びいたあばん	32.624	6	16	2(DNF)	15	13(DNF)	
17	寺井 良斉	テライヨシマサ	F's クラブ	32.239	2	4	10	16	0(DNF)		
4	井上 雄一	イノウエユウイチ	びいたあばん	32.696	7	17	0(DNF)	17	(DNS)		
SKチャレンジ	2	小池 誠治	コイケセイジ		34.809				1	12	スポーツカートの初心者クラスとしての位置づけで今シーズンから始まったSKチャレンジクラス。当日エントリーも可能で、初心者ならずとも誰でも気軽に参加できる。今回もさまざまなメンバーでの開催となった。まず、10分間の練習兼タイムトライアルがあり、そのタイムで決勝の出走順が決まる。決勝レースには「ワールドチャンピオン」原の参加もあり、真剣なレースでありながら和気藹々とした雰囲気も感じられるこのクラス、ポールポジションからスタートした小池はシリーズ入賞者の賞禄をみせ後続車を引き離して堂々の優勝。2位には久々の生駒出場の立津、3位にはシリーズ戦初出場の藤谷が入賞した。
	9	立津 良	タテツリョウ		34.928				2	12	
	10	藤谷 和毅	フジタニカストシ		35.116				3	12	
	8	高橋 雄佑	タカハシユウスケ		35.237				4	12	
	7	大島 和也	オオシマカズヤ		35.602				5	12	
	4	吉川 友裕	ヨシカワトモヒロ		35.812				6	12	
	3	後藤 英多郎	ゴトウエイタロウ		35.974				7	12	
	11	小林 浩	コバヤシヒロシ		36.534				8	12	
6	菅谷 隆三	スガヤリュウソウ		36.507				9	6(DNF)		